

八意思兼命

「八意思兼命」

政治・学問・工業・開運の祖神

「知知夫彦命」

知知夫国の初代国造・秩父地方開拓の祖神

「天之御中主神」

北辰妙見として鎌倉時代に習合した神

「秩父宮雍仁親王」

先帝昭和天皇の弟宮様、昭和二十八年に合祀

創建

平安初期の典籍『先代旧事紀』国造本紀」によれば、人皇第十代、崇神天皇の御代、知知夫国の初代国造に任ぜられた知知夫彦命が、祖神である八意思兼命をお祀りしたことに始まります。

社殿

戦国時代の末期に兵火によって焼失したものを、天正一〇年(一五九二年)九月、徳川家康公が大旦那となつて、代官である成瀬吉備門に命じて再建されたのが現在の社殿です。
建築様式は、本殿・幣殿・拝殿の三種からなる権現造りで、極彩色に彩られた数多の彫刻群に覆われた豪華な造りとなつており、建造時の棟札と共に埼玉県の重要文化財に指定されています。

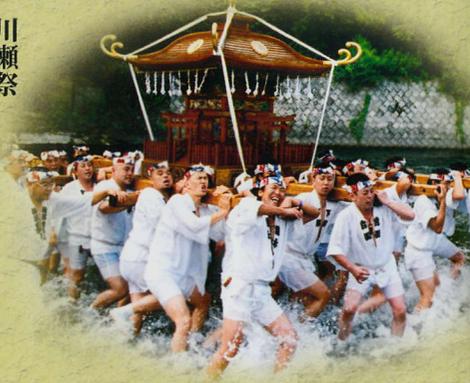


秩父夜祭

(国指定重要無形民俗文化財)
京都祇園祭、飛騨高山祭と共に日本三大曳山祭のひとつに数えられ、毎年十二月三日の夜に行われる当神社を代表する祭礼行事です。

川瀬祭

毎年七月十九日、二十日に行われる当神社の夏祭。
二十日の午後には神輿が荒川の清流に入り、悪疫退散を願つて神輿洗いの神事が行われます。



北辰の梟

ご本殿北側の中央に彫刻された「北辰の梟」は、体は南、頭は真北を向いて、思慮深く昼夜を問わずご祭神をお守りしています。



お元氣三猿

日光東照宮では「見ざる言わざる聞かざる」とされる三猿も、当神社では「よく見てもよく聞いてよく話す」元氣な姿で彫刻されています。



つなぎの龍 (伝 左甚五郎作)

名工、左甚五郎が社殿彫刻に施したものと伝えられ、その昔、夜な夜な近くの池に現れたために鎖で繋ぎ止められたという伝説があります。



子宝・子育ての虎

(伝 左甚五郎作)
当時の狩野派の流れを汲んで、母虎があえて豹柄で描かれたこの彫刻は、子育ての大切さを名工が彫刻に込めて表現したものと伝えられています。



秩父神社境内地図

